

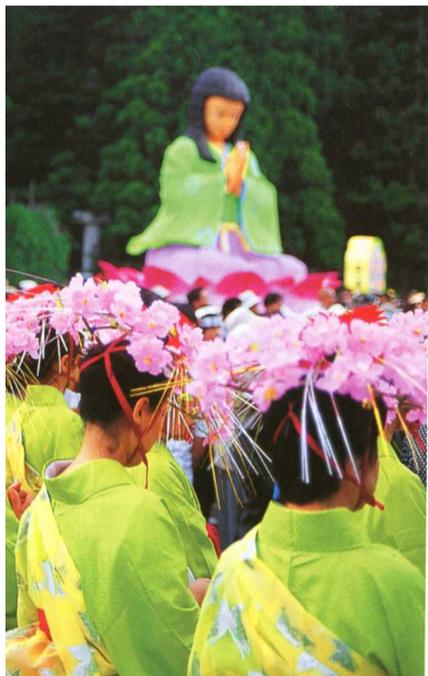
## 本堂・客殿建設に向けて スタートしました

茲に、長い間の悲願であります本堂の建替、客殿新築を檀信徒総会の総意を得まして、本事業をスタートいたしました。

さて、当山は延文二年(1357年)草創以来六百数拾年の歴史を歩み、真言密教の法灯を今日に伝えてまいりました。現在の寿楽院本堂伽藍は、中興寺開山山空性和尚の宝暦年中(1751~1764)に建設され茅葺き屋根のもので、その後幾星霜改築をかさね、特に昭和二十八年大改築をして今日の本堂伽藍の姿になったわけです。

その間、明治二十二年に花園村が誕生し、寿楽院は、明治二十五年から大正四年まで尋常高等小学校として、子供たちの学び舎として利用されました。

いつの時代でも、周辺の人達の集会する場所として寺を利用することが良い姿に感じられます。予期せぬ災害での避難場所等も考えられます。そんな意味も込めまして、耐震性に優れたもの等最大限考慮したいものです。



### 六月十五日は、お大師様の誕生日です、

高野山では、青葉祭りとして、祭典をします。この写真は、以前のその情景の一コマです。

### 二度とない人生だから

一輪の花にも 無限の愛をそいでゆこう  
一羽の鳥の声にも 無心の耳を傾けてゆこう

## 天眼 (てんげん)

今でも街角で、大きな天眼鏡をもって人相占いをしている人を見かけることがある。ただ、天眼鏡という言葉は、もうあまり使われないのかもしれない。若い人には、虫めがねの大きいやつとでも言わなければ、きっと通じないに違いない。  
この天眼という言葉、実は仏教の天眼が元になっている。普通、物を見るときは、眼で見ることを指す。ところが、眼で見る以上のことが見える場合、肉眼と区別して特に天眼と呼ぶのである。

### 仏教が生んだ日本語

人生は幸せ探す長い旅 命がけより 心がけだ

信ありて 施すは なお、まさる

二度とない人生だから 戦争のない世の 実現に努力し

そういふ詩を 一篇でも多く 作ってゆこう

わたしが死んだら あとをついでくれる 若い人たちのために この大願を 書きつけてゆこう

二度とない人生だから のぼる日 しずむ日 まるい月

かけゆく月 四季それぞれの星々の光にふれて

わが心を洗いきよめてゆこう

二度とない人生だから まず一番身近な者たちに

できるだけのことをしよう 貧しいけれど こころ豊かに 接して行こう

二度とない人生だから 一ぺんでも多く便りをしよう

返事は必ず書くことにしよう

二度とない人生だから 一匹のこおろぎでも ふみころさないように

てゆこう どんなにか喜ぶことだろう

## 空海の言葉 シリーズ

### 洪鐘の響に随って巻舒す

●●大きな釣り鐘の音は、それを聞く人の機根によって、大きく聞こえたり小さく聞こえたり伸びたり縮んだり、さまざまに響く。

お釈迦さまは、説法の達人でした。ある人が、「ありがたい教えを聞かせてください」と頼んでも、  
「まだこの人には、わたしの話を聞く機が熟していない」と思われたとき、  
「縁なき衆生は、度し難し」  
そのまま黙してひと言も発せられませんでした。  
お釈迦さまは、とくに人間の機根ということを大切に考えられたようです。

